



民間セクターによる籾買取りが始まる!

成果 1: 栽培技術



< プルト地区のFFSモデル農家 >

1. プルト地区雨期作の収量調査

プルトにおいて、収量調査および収量構成要素調査を行った。41名のベマセ地区Farmer Field School(FFS)参加農家の収量調査結果は、平均5トン/Haの好調な結果を示した。これはFFS参加農家が、推奨される量の元肥を行ったこと、若い(成長し過ぎていない)苗を移植したこと、および適切に病害虫防除を実施したためと考えられる。ベマセ地区の農家は、収量構成要素調査、特に面積当たり穂数についても良好な結果を示した。

2. 乾期作

今年の乾期作は、合計81名(プルト22名、マリアナI59名)の農家がFFSに参加し、乾期作を開始した。乾期作FFSへの参加農家数は今年増加したが、これは、最近の国産米販売の実績から市場拡大への期待・実感によるものと考えられる。



< マリアナIでの移植の様子 >

成果 2: 灌漑管理



< プルト地区でのインタビュー調査 >

1. 現状把握調査

プルトとマリアナIの両灌漑地域の現状を把握するためのインタビュー調査を継続実施した。6月末時点で、7名のゲートキーパー、50名の支線水路管理人(Kabu-wee)、11名の水利組合(WUA)役員、10名の村長、3名の郡長に対するインタビューを終了した。引き続き、農家に対するインタビュー調査を行う。

2. 農家台帳作成 (Farmers Register List: FRL)

耕作者の名前、ステータス、耕作面積、支線水路の位置や支線水路管理人(Kabu-wee)の名前などの情報を含む農家台帳作成をプルト灌漑地域で開始した。支線水路水管理人(Kabu-wee)が水利組合(WUA)の再組織化に重要な役割を果たすため、この台帳作成作業はKabu-weeの協力を得ながら進め、彼らの貴重な知識や情報を活用していく予定である。

成果 3: 物流と販売 (民間)



< チャクブ組合の籾代金支払い >

1. チャクブ農家組合メンバーシップ

チャクブ組合がメンバーシップ登録農家から籾を購入することを支援した。同組合は6月に、63名の農家から合計95.38トンの籾(肥料代差し引き分含む)を購入し、籾代金を現金にて農家に支払った。

2. アセルダ社メンバーシップ

アセルダ社のメンバーシップ登録農家から籾購入を支援し、同社は、16名の農家から合計23.88トンの籾を購入し、籾代金を現金にて農家に支払った。

3. ファーマーズマーケット

バーコードシステムを含む、ファーマーズマーケットの経理システム強化研修を開始した。週に2回、2か月間かけて研修を行う。



< アセルダ社の籾購入 >

成果 4: 買取と配布 (政府)



< NLCによる銀行口座開設サポート >

1. National Logistic Center (NLC)による籾買い取り

経済調整省内での確認・議論を経て、経済調整大臣がNLCの2つの籾買い取り価格(\$ 0.40/kg : 農家の圃場でNLCが買い取る場合、\$0.52/kg : 農家が3トン以上の籾をNLCの倉庫まで運搬し同倉庫にて買い取る場合)を承認した。この承認を受け、NLCは7月上旬より籾買い取りを開始する計画である。今年のプルトとマリアナおよびその周辺地域からの籾買い取り計画量は、合計600トンである。買い取りに先立ち、NLCのマリアナスタッフは、標準作業手順書バージョン1に基づき、5つの農家グループ設立および銀口座開設を支援した。

2. コメタスクフォース設立

プロジェクトと農業水産省は、改定したJoint DispatchとTerms of Referenceの内容を再確認した。Joint DispatchとTerms of Referenceが、全ての関連省庁大臣より署名された後、第1回実務会議を7月末に開催する予定である。